

「平成28年社会生活基本調査 生活時間に関する結果」のポイント（家事関連時間について）

平成29年9月に、総務省が公表した「平成28年社会生活基本調査 生活時間に関する結果」の家事関連時間（*1）に関する結果に着目すると、男性が増加傾向にあり、男女差は縮小しているが、依然として格差が大きいことがわかりました。

（*1）家事関連時間 ……「家事」「介護・看護」「育児」及び「買い物」

1. 調査の概要

「社会生活基本調査」は、国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、仕事や家庭生活に費やされる時間、地域活動等へのかかわりなどの実態を明らかにし、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的として、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施している。平成28年調査は平成28年10月20日現在で実施しており、調査対象は全国の世帯から無作為に選定した約8万8千世帯に住んでいる10歳以上の世帯員（約20万人）である。

2. 家事関連時間全般について

家事関連時間の週全体平均（*2、以下「週全体」という）を男女別に平成23年と比べると、男性は44分で2分の増加、女性は3時間28分で7分の減少となっている。（図表1）

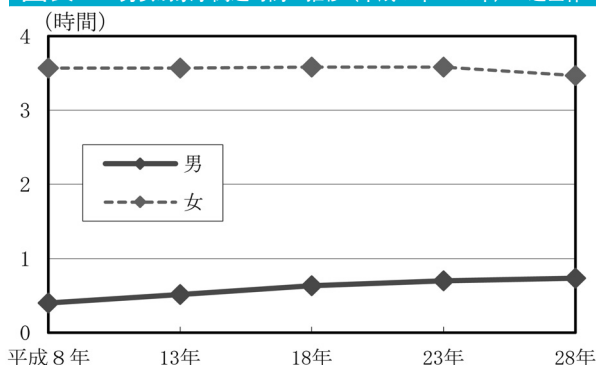
（*2）週全体平均…平日、土曜日、日曜日の曜日別結果の平均

図表1 男女別家事関連時間の推移（平成8年～28年）一週全体

	（時間：分）		
	男	女	男女差
平成8年	0.24	3.34	-3.10
平成13年	0.31	3.34	-3.03
平成18年	0.38	3.35	-2.97
平成23年	0.42	3.35	-2.93
平成28年	0.44	3.28	-2.84

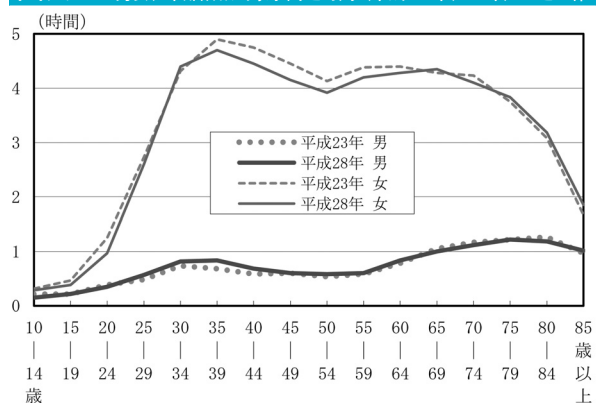
過去20年間の家事関連時間の推移をみると、平成8年に比べ、男性は20分の増加、女性は6分の減少となっている。男女の差は2時間44分と平成8年の3時間10分と比べると26分縮小しているが、依然として差は大きい。（図表2）

図表2 男女別家事関連時間の推移（平成8年～28年）一週全体



家事関連時間を男女、年齢階級別に平成23年と比べると、男性は25～44歳、50～64歳などで増加となっている。一方女性は10～29歳、35～64歳などで減少となっている。（図表3）

図表3 男女、年齢階級別家事関連時間（平成23年、28年）一週全体



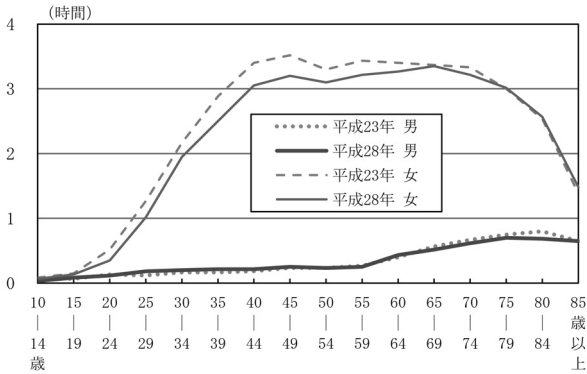
3. 家事時間について

家事関連時間のうち家事時間（週全体）について、男女、年齢階級別に平成23年と比べると、女性は35～49歳で約20分の減少となっている。（図表4）

過去20年間の家事時間の推移を男女別にみると、男性は増加傾向、女性は減少傾向となっ

り、男女の差は縮小している。(図表不掲載)

図表 4 男女、年齢階級別家事時間(平成 23 年、28 年)一週全体

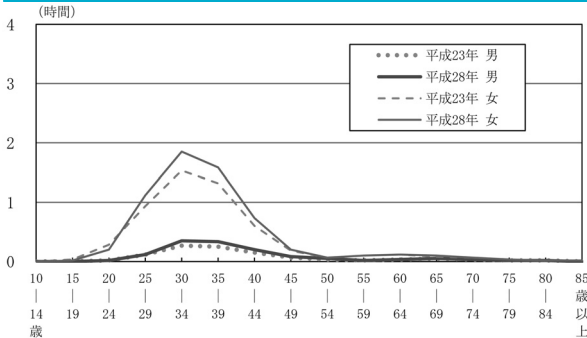


4. 育児時間について

家事関連時間のうち育児時間(週全体)について、男女、年齢階級別に平成 23 年と比べると、女性は 30~34 歳で約 20 分の増加となっている。一方、男性は 30~39 歳で 5 分の増加となっている。(図表 5)

過去 20 年間の育児時間の推移を男女別にみると、男女ともに増加傾向となっている。(図表不掲載)

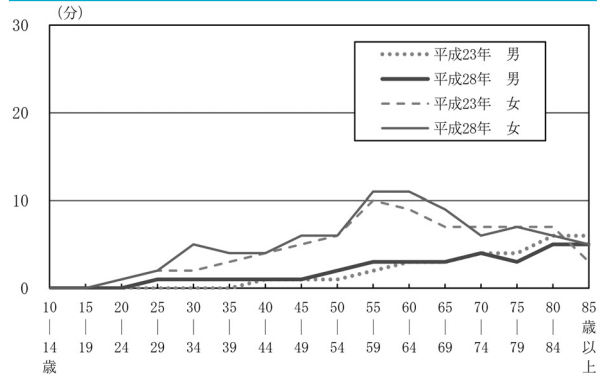
図表 5 男女、年齢階級別育児時間(平成 23 年、28 年)一週全体



5. 介護・看護時間について

家事関連時間のうち介護・看護時間(週全体)について、男女、年齢階級別に平成 23 年と比べると、女性は 30~39 歳、55~69 歳などで増加となっている。(図表 6)

図表 6 男女、年齢階級別介護・看護時間(平成 23 年、28 年)一週全体



15 歳以上で普段家族を介護している人(*3、以下「介護者」という)は 698 万 7 千人で、平成 23 年と比べ 15 万 8 千人の増加となっている。

(*3) 普段の状態がはっきり決められない場合は、1 年間に 30 日以上介護をしていれば「普段介護をしている」とする。

男女別にみると男性が 277 万 6 千人、女性が 421 万 1 千人となっており、女性が介護者全体の約 6 割を占めている。年齢階級別にみると、60 歳以上で介護者数が 41 万人の増加となっており、介護者全体の約 5 割を占めている。

介護者のうち、調査当日に実際に介護・看護を行った人の平均時間(行動者平均時間)は、介護・看護時間の把握を開始した平成 3 年以降、男性はおおむね横ばい、女性はおおむね減少傾向で推移しており、平成 28 年は男性が 2 時間 32 分、女性が 2 時間 28 分と、初めて男性が女性の行動者平均時間を上回った。(図表不掲載)

家事関連時間については、男女間で依然大きな格差があります。しかし、年々、男女差は縮小傾向にあることから、今後、少子高齢化が進んでいく中で、家族同士で協力しあいながら、住みよい環境、社会を作っていくことが望まれます。

(中井正人)